

ゴミ拾い

未来を拾う

お手伝い

岐阜県羽島市 中学2年
浅野 智恵

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

毎日一つはゴミを拾っています、ゴミは川から海に流れ、また魚をとおして私達に戻ってきます。岐阜県は海無し県ですが、陸の豊かさや海の豊かさを守り、きれいな未来にしていきたいです。これからもお世話になる地球ヲ守りたいです。私は小学校で読んだ「ハチドリのおずく」に感動して、自分が無理なくできるゴミ拾いを続けていきたいです。

あの森も

ミミズも人も

地球の子

神奈川県横須賀市 85歳
阿部 文彦

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

万物が生存する地球の危機が迫ってきています。例えば南に干ばつ、北に豪雨。これらは人間の我儘が一つの要因と考えます。地球を大事にすることが大切です。

直売の 野菜を手にして にっこりと

神奈川県横須賀市 69 歳
荒木 裕実

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

近隣の農家の出店で販売している野菜は形が悪かったりしているものもありますが、味は素晴らしいものが多くあり、調理すれば問題なく、また安価であります。。地産地消になり遠くに買いにいかななくてもすみます。

下駄の音

世代を超えても

同じ音

広島県福山市 55歳
井田 征臣

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

松永と今津は、かつて下駄づくりが生活とともに興隆し全国に名を知られた町です。今ではその産業がまったく衰退し、かつての賑わいは失われました。しかし下駄文化の記憶は人々の心に残り、祭りや地域の語りの中に脈打っています。今回の川柳「下駄の音 世代を超えても 同じ音」は、失われつつある下駄のリズムを呼び起こし、未来へとつなぎたい願いを込めました。松永は多国籍の方々が多く暮らす町です。異なる言葉や文化を持つ人びとが祭りに集い、下駄の足音とそれぞれの音楽が共鳴することで、新しい交流のリズムが生まれます。子どもから高齢者まで、国や世代を越えてつながる祭りの輪は、誰もが安心して住み続けられる町づくりの希望の象徴です。小さな足音が多様な文化と重なり、持続可能な未来を育てる その願いを一句に込めました。

拾おうか 他人が捨てた 空き缶を

東京都世田谷区 61歳
大倉 靖司

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

この SDGs という運動は、各人が自分の枠を超えた気持ちを持っていないと進展しないと思いました。

バス電車 見渡す限り 外国人

神奈川県逗子市 45歳
大村 佳那

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

オーバーツーリズムにより、観光客の増加が住民の生活に負担をかけ住みにくいまちになって
しまう。

ゴミ減らす

素敵な未来

つくりたい

滋賀県大津市 51歳
笠井 章代

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

ゴミを減らそう。

持続して きれいな地球へ ゴミ拾い

東京都江戸川区 71歳
加藤 秀雄

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

現在から未来へと安心して住める地球への思い。

町づくり

住み続けられる

安心を

神奈川県逗子市 小学5年
窪田 花奏

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

ゴミ無くす

未来のあなたが

生きる街

神奈川県逗子市 27 歳
喜多 しおり

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

私には 7 歳の甥と 1 歳の姪がいます。この子たちの生きる未来が明るくゴミのない緑豊かな世界であるように、いま私たちができることを書きました。ゴミをなくして未来の子供たちが生きやすい街をつくりたいそんな思いが込められています。

ゴミ拾い

インスタよりも

いいねくる

神奈川県鎌倉市 44歳
北郷 恵美

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

SNS で「いいね」をもらうことを楽しみにしている人も多いですが、SDGs につながる行動をすると「気持ちいい」「社会的にいいね」という本物の「いいね」が返ってくる

サステナを 知って実践 エコ活動

宮城県黒川郡大和町 40歳
吉川 有香

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

そもそもSDGsって何？どうすればいいの？と疑問に思う人が多数いると思います。気軽にできる身近なことからサステナブルを実践し、繰り返しできるようになることが周知されれば良いと思います。

続く未来

これが人の

伝統だ

神奈川県逗子市 小学5年
小泉 航輝

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

続けてくれたじ代いは次のじ代いにつなげるという思い。

私たち

みんなを守る

海の色

神奈川県藤沢市 小学4年
菅野 美希

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

私は湘南に住んでいて、きれいな海が大好きです。その海の豊かさをみんなにも守ってもらうために書きました。

エコバッグ

エコな未来を

つくるカギ

神奈川県鎌倉市 小学4年
関野 茜

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

エコバッグを持つ事で買い物ときのレジ袋を使う必要がなくなるのでエコな未来に繋がると私は思っています。

分別で 始まる未来の まちづくり

神奈川県横浜市 25歳
田島 楓

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

この川柳は、身近なごみの分別を通して、未来のまちを守る姿勢を表現しています。ごみの分別は一見小さなことですが、資源の再利用や焼却ごみの削減につながる大切な行動です。地域全体で意識をすれば、環境負荷を減らし、よりきれいで快適なまちを次の世代へ残せる取り組みです。自分ひとりくらい、少くくらいならいいかと思わずに、家庭や職場から始める一歩が、住み続けられるまちの土台となるそんな想いを込めた一句です。

子や孫に 残せる未来を 今作る

奈良県奈良市 70歳
田中 信夫

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

公園掃除のボランティア活動に参加していますが、自分に出来ることを少しでも実行することが、SDGsに繋がると信じています。

地球汚さず 善管注意で 住もうもの

広島県広島市 78歳
寺尾 たかまさ

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

地球は人類の借り物だから汚さず壊さないように善管（善良な管理者の注意義務）の心配りで対応しよう。ゴミや危険物で汚したり戦争の爆撃で大地を壊さない配慮が必要です。

地産地消

我が街知りつつ

巡る味

神奈川県横須賀市 53歳

中澤 由香

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

今年、初めて「ふるさと納税」をやってみようと神奈川県や地元の寄付先を調べたところ、意外と色々な食品が対象になっているということを知りました。他県の食品もとても魅力的ですが、まずは我が地元を知るところから！と思い、このような川柳となりました。

再利用

つなぐ暮らしと

未来街

神奈川県三浦市 45歳
新倉 圭

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

ものをむだにせず「再利用」することの大切さを表しています。使い終わったものを捨てるのではなく、工夫して生かすことで、暮らしを守り、未来まで続く街をつくることができます。「つなぐ」という言葉には、いまの暮らしを次の世代へつなげたいという思いが込められています。

徒歩通勤

街の四季見て

感動し

滋賀県長浜市 69歳
野口 成人

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

徒歩通勤し街の四季を見手、街の住みよい環境を考えました。

使いきる

モノにありがとう

循環へ

神奈川県平塚市 36歳
野中 瞳

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

生活ごみは必ず出ますが、その中でも循環して使えるものはしっかりと使いきって口入を無くし、環境保全のためにリサイクルに回していこうという意味で考えました。

地球を守る

小さな行動

未来へと

埼玉県鴻巣市 56歳

橋本 英司

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

リサイクルや節電など、日々の積み重ねが未来を変える。

観光地

ごみだけ残るの

なぜだろう

神奈川県横浜市 22 歳
花岡 菜月

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

観光に行く際飲み物でしたり食べ物を目的として行くと思います。若者世代の多くは SNS のために購入し、写真を撮り満足してそれを食べなかつたりごみを片付けず放置したりする方が少なからずいます。もちろん若者世代に限らず海外の方、高齢者の方も同じです。わざとごみを落としたわけでも自分で落としたり食べたものは片付けて帰ってほしい、それができない人、その少しの人のせいで環境が汚染されたり、次に利用する人が嫌な気持ちになる現状に訴えかけたくこの川柳を書きました。

変えてみる

便利さよりも

優しさに

茨城県つくばみらい市 73 歳

早雲 直

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

もったいないの精神で便利さよりも優しい心で生活することが大切と思う

ゴミがある 捨てても良いと 勘違い

神奈川県横須賀市 44 歳
平山 淳司

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

捨ててはダメな場所にゴミがあると捨てても良いと勘違いされます。小さなゴミでも拾う事で大きなトラブルを防ぐ事が出来ると思います。

パッカー車 一緒にいけない ガスボンベ

神奈川県茅ヶ崎市 小学4年
松本 萌海

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

街を爆発から守るため。

電気消す 小さな意識が 未来を灯す

神奈川県横浜市 60歳
宮坂 隆幸

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

面倒がらずに小さなことを意識することで未来へつなげていきたい。

ちょっと待て 捨てるペットボトル 再利用

神奈川県横浜市 68歳
村木 幸恵

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

捨てるのはもったいない、環境にもやさしくない、再利用できるものは身近に置いて利用することで、心身ともに豊かな生活が出来るのではないかという願いを込めました。

コーンポスト 野菜は育つし ごみ出ない

神奈川県三浦郡葉山町 70歳
村田 和樹

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

我が家は、かなり前から家庭菜園用に生ごみをコーンポストで処理して、土に混ぜて野菜等を栽培しています。ですので、生ごみはほとんど出ません。

通勤も

eco でつなぐ

海の未来

神奈川県鎌倉市 47 歳
安井 満晴

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

通勤という身近な場面での eco 意識の大切さを伝える。車の設定を eco モードにして環境に配慮した eco な走行を心がけています。マリーナスタッフとして海を守るため意識して実行することで未来につながる

道のごみ

拾った誰もが

ヒーローだ

神奈川県茅ヶ崎市 39歳
柳 雄太

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

道に落ちているゴミを拾うことは誰でもできるが、実際に行動に移せる人は少ない。それができる人は心に余裕があり、その先を考えることができる人だと感じ、ヒーローだと思ってます。そんな人たちがたくさん増えることが住みよいまちづくりの基板となると考えてこちらの川柳にしました。



小さな手

明るい未来

にぎってる

神奈川県横浜市 小学4年
脇田 麗世

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

私たち子ども達が、今頑張って環境問題について勉強し、取り組む事で、明るい未来が待っていると思います。「にぎってる」には、未来をにぎるという意味と、みんなで手を取り合いながらがんばるという意味がこめられています。

引き継いだ 実家リフォーム 古民家風

愛知県岡崎市 49歳
渡辺 佳幸

作品について（説明や思いを自由にご記入ください）

遺産として引き継いだ実家ですが、古かったのでリフォームしました。過疎化が進むまちですが生まれ育ったまちでもあるので、ここに住み続けられるようこれからも頑張りたいです。